サツマイモ基腐病

糸状菌（かび）により引き起こされる病気で、苗、イモ、土壌中の残渣、畑にたまった水などで感染拡大します。令和６年３月現在36都道府県で発生確認されており、特に鹿児島、宮崎では大きな被害が発生しています。

イモはなり首側から腐敗する

株元の黒変

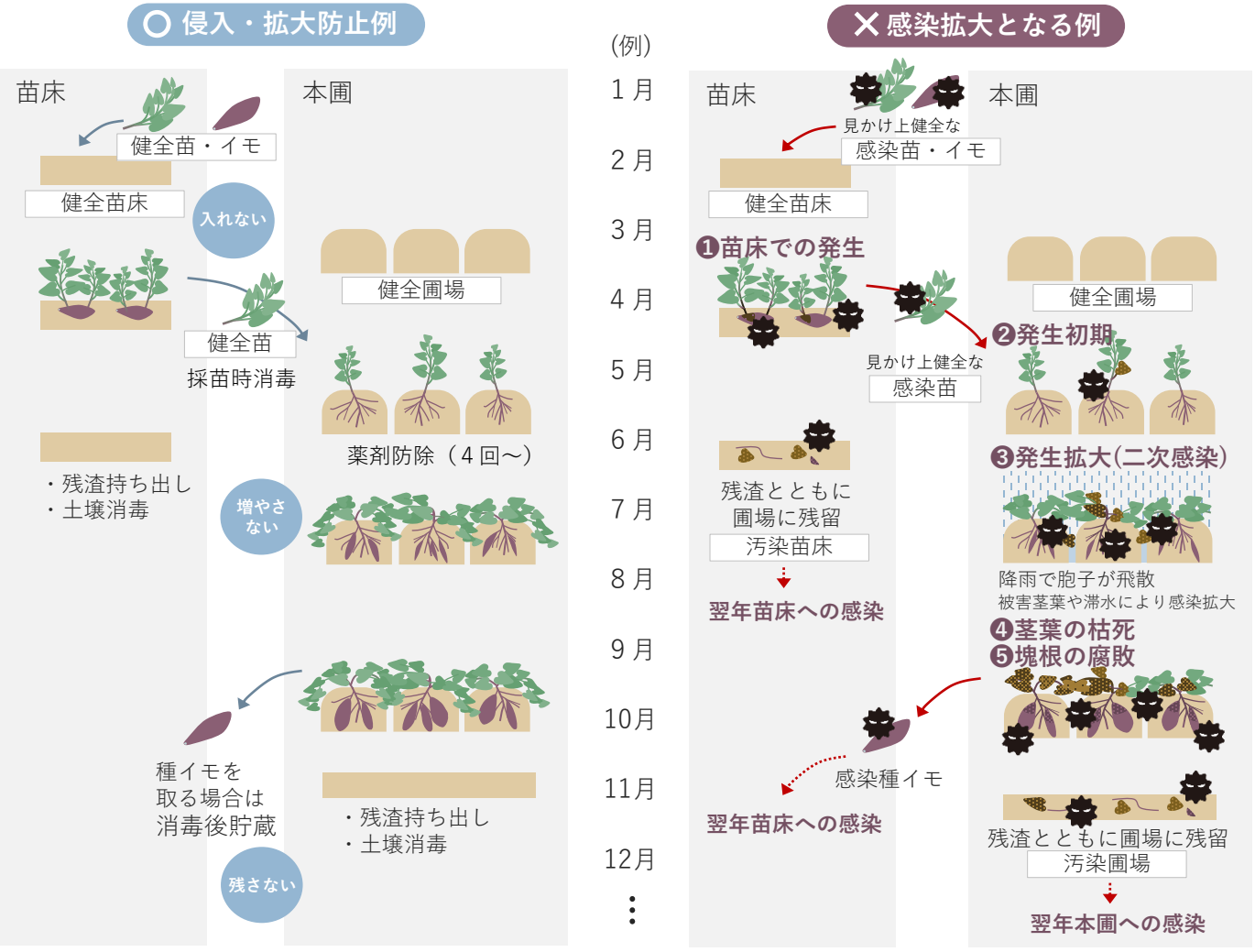
収穫皆無の圃場

！
- **保菌した種イモや苗から圃場に持ち込まれる**
- 気温が高くなると株元から黒変し、圃場全体が徐々に枯れていく
- **一度発生すると**、病原菌がイモや苗、残渣とともに土中に残り、**毎年発生する**

写真：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）
令和４年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より転載

サツマイモ基腐病の伝染経路

畑に基腐病菌を入れない、畑内で増やさない、次作に残さないの３ステップで徹底対策！



県内「初」の発生圃場とならないために

1　健全苗・種イモの確保

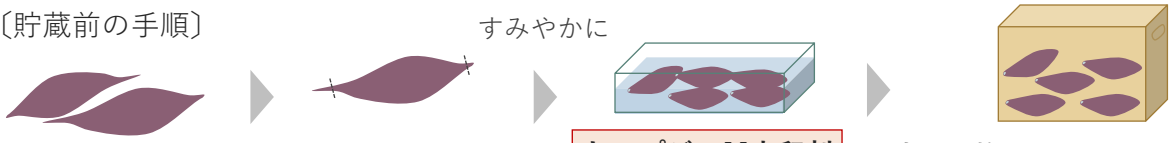
購入苗の場合

・**県内あるいは未発生地域に由来する無病の苗**を、信頼のおける業者から購入する
・甘太くんの場合は、全量ウイルスフリー苗を購入する

種いもの場合　※なるべく購入苗を使用する

・**種いもは必ず県内産の健全圃場から採取し、貯蔵は必ず消毒してから**行う

〔貯蔵前の手順〕



水洗いし、**傷や腐敗のないものだけ**を選別

切り口が2cm程度になるように切除

トップジンM水和剤
200倍
30分浸漬

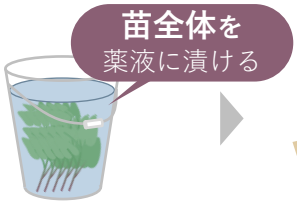
表皮が乾いたことを必ず確認してから貯蔵する
48℃・40分間温湯処理はさらに有効

2　採苗時消毒

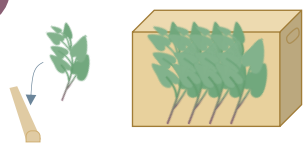
・**苗の薬剤消毒は**他の病害も含めて**初期の発病抑制効果が高いため、必ず行う**
・採苗時のハサミはこまめに消毒する（火炎処理または水洗＋ふき取り）
・**苗消毒は採苗/購入当日に行う**ことで定植後の付着防止とともに表面の菌密度を減らすことができる。保管後、定植前に消毒をする場合は、付着防止のみとなる
・薬剤は使用日ごとに毎日調整する。置いておくと日光等で分解し効果が落ちる

病原菌の感染リスクを下げるため
地際から5cm程度上から採苗

ベンレート水和剤
500～1,000倍
30分浸漬
または
ベンレートT水和剤20
200倍
30分浸漬



全体を漬けることで防除効果が向上

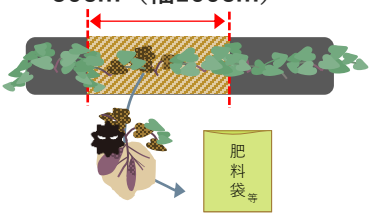


消毒後、定植または取り置き
必ず切り口が乾いてから植える

3　発生株の早期発見・除去

早期発見、処分が最も重要
・萎れや葉の変色、株元の変色など**発病が疑われる株が見られた時は、すぐに県振興局に連絡**する
・万が一抜かなければならない事態になったときは、**被害株から50cm周囲を土ごと掘りとり、肥料袋等に入れ、葉・茎や土を周囲に落とさない**ように持ち出す
・被害株の残渣は、畔や圃場周辺に放置せず処分する

被害株から両サイド50cm（幅100cm）



株、隣の株、土ごと掘りとり肥料袋等に入れて持ち出し

基腐病被害から経営、産地を守るため、対策を徹底しましょう！

問い合わせ先（各振興局園芸班）

東部振興局	国東・杵築・別府・日出　0978-72-1141
中部振興局	大分・由布　097-506-5764　｜　臼杵・津久見　097-506-5768
南部振興局	佐 伯　0972-22-1553
豊肥振興局	豊後大野　0974-63-1302　｜　竹 田　0974-63-1304
西部振興局	日田・玖珠・九重　0973-23-2217
北部振興局	宇佐　0978-28-2016　｜　豊後高田　0978-28-2337　｜　中津　0978-28-2338